

物流の「2024年問題」に取り組む企業を訪問 ～山口労働局長がベストプラクティス企業として 株式会社光運送を訪問しました～

山口労働局（局長 友住弘一郎）では、11月の「**過重労働解消キャンペーン**」の取組の一環として、令和6年11月21日（木）、物流の「2024年問題」の解決に向けて積極的に取り組む企業への職場訪問を実施しました。

今回は、「やまぐち物流2024年問題の解決に向けた共同宣言（令和6年3月26日採択）」を踏まえ、長時間の荷待ちの改善、女性や若者等の多様な担い手の確保等に取り組んでいる株式会社光運送と荷主事業者である武田薬品工業株式会社光工場の担当者と意見交換を行い、併せて実際の取組現場の視察も実施しました。

（訪問には、「国土交通省中国運輸局山口運輸支局長」も同行しました。）

ベストプラクティス企業の紹介

企業名： **株式会社光運送**

所在地： 山口県光市光井字武田2520-10

設立： 2005年5月

労働者数： 34名（男性22名、女性12名）

事業内容： 一般貨物自動車運送事業



訪問した企業との意見交換の様子

訪問者

山口労働局 局長 友住 弘一郎
中国運輸局山口運輸支局 支局長 藤井 利佳

面接者 (敬称略)

(運送事業者) 株式会社光運送 常務取締役 内藤 祐也
(荷主事業者) 武田薬品工業株式会社光工場
サプライチェーン室W&D/SAP 主席部員 矢野 浩之



(友住
労働局長)

(左) 内藤氏

(右) 矢野氏

荷主と連携した取組

株式会社光運送では、自動車運転者の長時間労働の改善に向け、荷待ち・荷下ろしによる待機時間が生じないように荷主である武田薬品工業株式会社と協議を行った。

その結果、荷主側で荷をすべてパレタイズとすること、配送先での荷下ろし作業を全て廃止したことで、拠点での滞在時間の短縮を図り、自動車運転者の拘束時間の削減を実現。

さらに、メールや電話等により現場サイドでの細やかな時間調整を行うことで、荷待ち時間の縮減を図り、時間外労働の削減も実現した。

(当日の説明資料より抜粋)

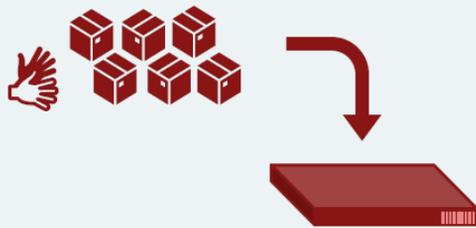
課題解決に向けた取り組み



配送先での積み替え作業廃止

拠点での滞在時間を減らし
運行時間を確保するため

手積み/卸し → パレタイズへ



待機時間の削減

荷待ち時間の短縮
→現場サイドでの細かな時間調整

メールや電話等で実施



女性や若者等の多様な担い手の確保の取組

人手不足と高齢化が進む物流業界の中、株式会社光運送では女性や若者等の多様な人材の確保と育成を目指して2016年度から高卒・大卒の新規採用を開始しました。「事務職＋現場でのフォークリフトによる積み込み」職種とすることで女性の職域が拡大、管理職（課長）への登用が進むなど、女性・若者が活躍しています。

若者雇用のきっかけを教えてください。



人事部長
友住 弘一郎

10年前は、社員の高齢化という問題を抱えており、今後、次世代へ継続できる経営を考えた際に若い社員を採用する取組を始めました。

若い社員を積極的に採用されていますが、採用できるようにするために取り組んだことがあれば、教えてください。



営業部長
内藤 祐也

弊社でもドライバーの確保には苦戦していますが、若い方に長く勤めていただきたいと思いますし、若い方の採用・定着を図るため、若い方が働きやすい職場づくり、労働時間の縮減・休暇取得促進・福利厚生充実などの取組を進めてきたことが採用につながっているのかなと思います。

若手社員の現場の視察の様子

業務2課の若手社員さんのフォークリフトでトラックに荷物を積み込む作業を見学させていただきました。

フォークリフトを丁寧に滑らかに操作してスムーズに荷積みがされていました。

(友住労働局長の感想より)



若手社員さんのコメント

最初はフォークリフトもうまく運転できませんでしたが、うまくできるようになると皆がほめてくれて嬉しいしやりがいも感じています。

会社の雰囲気はすごくよくて、社員を大事にしてもらえるいい職場だと実感しています。目標としている先輩を目指して頑張りたい。

他の社員さんとコミュニケーションを取りながら業務を進めています。残業は本当に少ないので、早く帰ってプライベートの時間を大切にしています。



若手社員さんにインタビューする友住労働局長（左）

視察後の労働局長の講評

運送事業者の株式会社光運送と荷主事業者の武田薬品工業株式会社光工場が、お互い協力をして良い関係を保ちながら、物流の2024年問題の解決に向けた取組を行っていました。

また、株式会社光運送は、若手の社員の意見を聞きながら、様々な福利厚生を導入していることを紹介していただき、若い人たちに自分の意見が通ると感じてもらうことも働きやすい職場環境を作るために重要なことと再認識しました。

ぜひ、こういった企業の取組を広げていって、物流の「2024年問題」が問題でなくなるような社会にしていきたいと感じました。

